

りっし

しゅっこう

立志出杭

vol.1

志高き、

出る杭となる

(整理念)

特集 出る杭人
一期生 武藤傳太郎
「武藤農法」

<目次>

代表挨拶
夢甲斐塾とは
10周年宣言
志活動発表者紹介
志活動展示者紹介
志活動紙面紹介
塾長紹介
事務局案内
編集後記

夢甲斐フェスタ2012プログラム

2012年8月19日(日)

14:00~18:00 志活動の実践披露

18:00~20:00 志活動の発表

- ・趣旨説明
- ・志活動発表
- ・総評(塾長)
- ・報告事項

20:30~22:00 懇親会

郷育フォーラム2012pre事業

夢甲斐塾

特集 出る杭人

一期生 武藤傳太郎

夢甲斐塾一期生の武藤傳太郎さんは、富士吉田にて、お米づくりをされています。富士山北麓の海拔九〇〇mという高冷地で、昼と夜との寒暖の差が激しく、今までおいしい米は作れないといわれていた土地でした。しかし、武藤さんがつくるお米【富士山麓の幻】の生産には、この気候がアミロース※の値を理想的に保つことがわかり、当地農家の悲願ともいべき、おいしいお米作りがスタートしました。その努力の結果、全国米・食味分析鑑定コンクールで見事日本一となり、需要に比べ生産量が少ない為、幻の米、【富士山麓の幻】といわれるようになりました。

自然農法（武藤農法）

微生物の働きにより、大地が自然本来の姿を取り戻し、地力が回復する。それは食糧の増産だけでなく、地球環境を守り、おいしく安全な作物を生み出すことに波及していくのです。自然農法はまさに地球と人にやさしい農法と言えます。

※お米のおいしさを左右するのは、「アミロース」という成分です。このアミロースの値が低いほど、食味が良いとされています。武藤さんがつくるお米【富士山麓の幻】のアミロースは一〇%で、コシヒカリの七八%より低くなっています。



武藤農法農業研究開発機構
理事長 武藤 傳太郎さん

『米は土でとれ』

米作りは、土作りです。昔から土作りが一番大切です。私は三〇年程前から私なりのやり方で無農薬、無化学肥料による農業に取り組んできました。私達の体と同じ作物も、健康に育つためには健康的な環境が必要はず。自然と調和した農業を実現させるために、この富士吉田のほとんどが溶岩石の土地で、いかに肥えた土をつくるかを研究し続けてきたんです。毎年毎年工夫しながら一年一年反省して。でも次の年はこうしてみようと常に前向きに、気負わず、自分自身で新しい発見を重ねながら、やってきたんです。だから、大変だったというより、楽しかった道のりですね。」



丹精込めてつくってきた土に稲が根を張り、穂を实らせます。

『土が生きている。』

稲がよく育つ土は、有機物と微生物が豊富に含まれている土です。有機物が微生物によつて分解され、稲の栄養分になり、また、有機物が分解されるときに土が軟らかくなり、稲の育ちやすい環境を作り出します。こうした環境を作るために、好気性の微生物（空気のあるところで働く微生物）五二〇種類を使った有機肥料作りをしています。

稲は根を通して土壌から栄養分を吸収し、茎や葉にエネルギーを供給しています。この栄養吸収作業に大きく貢献しているのが土壌中の微生物（細菌）です。



富士山麓の湧き水は年間を通して非常に冷たいです。（13度）

『真夜中の水の管理』

水田の水の管理(稲の生長に欠かせない水)

稲は、栄養分が溶け込んだ水田の水を根から吸収し、葉から蒸散させながら成長します。一反あたり、毎日三〇トンの水を必要とします。水には寒さから稲を守る役割もあります。水中は空気中と比べると温度が伝わりにくく、寒い時でも水の温度は急激には下がらないので、水の量を増やして水深を深くすることによって寒さから稲を守ることができます。(深水管理)さらに、水には雑草を防ぐ働きもあります。水によって空気が遮断され、酸素が少なくなった地中では雑草の根が育ちにくく枯れてしまうのです。

田植えから収穫までの間は、水を深くしたり、浅くしたり、稲の生長に合わせてこまめに水の量を調整することが大切な仕事です。

標高七〇〇〜一〇〇〇メートルの富士山麓の湧き水は年間を通して非常に冷たいです。(一三度)そんな冷水を昼の気温が高い時に、水田に入れると稲がショックを受けてしまいます。稲のことを考え、気温と地温と水温の差の少ない時間帯に水を入れる事で、すくすくと成長できると思います、夜中に水の管理をしています。



家族に迷惑がかかるからと玄関で寝起きをする武藤さん。

田植え3日後、夜水面にライトをあてると豊年エビが大量に集まってきます。この豊年エビを見ることが私の夜の水管理の楽しみのひとつです。

『日本人の文化を伝え、残していきたい。』

日本だけにとどまらず、中国へ農業指導に行っている武藤さん。ご自身の技術だけにとらわれずに、農業のもつ日本人の文化まで伝え残していきたいと話しています。

「日本人の文化っていうのは、コミュニケーションから始まった知恵文化だと思うんですよ。農業だってそう、人と人とのコミュニケーションによって形つくられていったんです。しかし今は閉鎖的ですよ。化学肥料

や農薬が使われるようになって、徐々に農業に関わる人の付き合い方まで変わってしまった。

昔は皆で助け合ってやってきたし、お茶のみ話で技術を広めていたりしてました。

私は、古き良き日本の農業を、いわば日本人の文化をこれからも伝え、残していきたいんです。そのために自分が持っている技術を拡げていくことが使命だと感じています。

誰もが安心して食べて幸せに暮らしていけるより良い環境づくりを山梨発でやっていきたいですね。」

(晴耕雨読 2009 Autumn 09号より引用)



『お互いを知る』

これまで、9期生と11期生が例会に武藤さんを招いて、お話を聴いています。まだまだこれからも新たなことに挑戦し続けている武藤さんに、大いに刺激を受けていました。



米がよく成長できる環境、条件を作ることが私たちの重要な仕事です。決して米そのものを作ることはできません。自然界の恵みを受け入れて良い米を育てるのです。



志活動の発表

厚芝好美(6期生) 地域コミュニティ広場
 雨宮誠(6期生) 『花木』を運営
 和田幸士(8期生) 一〇〇%山梨産の
 地ビールづくりに挑む

入倉要(8期生) 教育再生につなげる
 社会人講師派遣事業

山田津太男(10期生) 太陽光と
 マイクロ水力による発電

保坂浩輝(10期生) 日本の伝統文化の
 素晴らしさを伝える

三枝あゆみ(10期生) 山梨を変えるには、
 麻のフンドシから!

前田晋吾(10期生) インキューションハウス
 志活動の拠点に!

他参加者より

志活動の展示

餅つき・・・餅つきを通じて食育を図る
 とともに和の心を育む

箸づくり・・・箸づくりを通じて食育を考える
 ふんどし委員会・・・手づくりの禪の展示販売
 原発決死隊に寄贈

歴史クイズ・・・歴史感を深め、
 より山梨を好きになる

お茶席・和菓子販売

サバイバル料理・・・有事の際に役立つ調理法
 と干し野菜を使った料理

COMO・・・ガス・電気を使わない
 スモーク力を使ってピザ作り

紙芝居・・・紙芝居を通じて日本人の
 誇りと素晴らしさを伝える

フェアトレード・・・公平な貿易で 世界中が
 幸せになることを目指します

志活動の紙面発表

植村あゆみ(7期生)

私は、山梨県立科学館のプラネタリウムを中心に活動を行う「サイエンスブックルー・星の語り部」に参加しています。星の語り部は、誰でも参加できる市民コミュニティ。「表現・創造・交流」をキーワードに星を通じて伝えたい思いを語り合ったり、詩や短歌・俳句で表現したり、物語や歌にして地域の方々にも楽しんでもらいたいという、様々な活動を緩やかにしています。地球上のすべての人にとって共通の風景である「星空」を通じて、より多くの人と心をつなげ、喜びや悲しみなどの気持ちを共有しようという、地域での活動にも積極的に取り組んでいます。私の行っていることは、困っている誰かを直接的に手助けするような活動ではないかもしれませんが、しかしながら、皆が楽しく笑顔で毎日を送ることができると、社会をつくることに繋がるのではないかと思っています。

矢島孝浩(2期生)

夢甲斐塾餅つき部隊は餅つきを通じて「食育」を推進することを目標に活動しています。現代の子供はともすると餅はスーパーで買ってくる袋に入ったものと考えています。また、毎日食べるご飯もただ購入するもので、実際に丹精込めて作っている農家の存在をきかれません。多くの人の手を通じて流通し、さらに実際に餅つきをするためには米を研ぎ、水に漬けて、蒸して、臼と杵でつく、さらに丸める、あるいはのして切るという大変手間ひまをかけて作られるという事も知りません。そこで我々は出来る限り子供たちに現場を見せ、実際に触らせて経験してもらい、また解説もわかりやすく子供たちに興味を持たせるように取り組みしていきたいと思っています。第2回郷育フォーラムから活動を開始し、今年度も夢甲斐フエスタ、郷育フォーラムで活動したいと思っています。

丸山浩(9期生)

「ドラボケ倶楽部」では、参加者同士の会話を中心にしたコミュニケーションの簡単な実習を行います。そこであなたは、あなたにとっての「ドラえもん」のポケットを持った人に出会うことができるかもしれません。対話を通じて、不思議な「気づき」を与えられ、平凡な日常が新鮮に見えることもあります。あなた自身が誰かにまつての「ドラえもん」のポケットを持つていることでもあります。まず参加して、会話を楽しんでください。とにかく一度参加してみることをお勧めします。月1回、開催しております。

三枝あゆみ(10期生)

なぜフンドシなのか。なぜ麻なのか。日本神話によると、最初に神から与えられたのは稲と麻。縄文時代より日本人は、麻と共に暮らしてきました。衣類・食糧・燃料・建材・薬・神事の道具など、生活にはなくてはならない植物でした。日本の麻は、現代の麻のイメージ「麻薬」とは違う種類の麻です。身につけることで、霊的なエネルギーを得られるとも言われています。綿と違って、農業を使わずに約3ヶ月で成長する環境に優しい作物です。今、フンドシが流行したり、石油に代わる資源として世界中が注目しています。古来、日本人が身につけていた麻で、日本人が着用していたフンドシを締める！日本人の精神性を高めていた腰肚(シラ)文化を現代に復活させることで、肚の座った日本社会が実現します！

編集後記

夢甲斐塾は本来学びの場である。そういう第一前提を以てこのフエスタを観た時、私はこのフエスタは成功より寧ろ失敗すれば良いと思つて成功。成功は勿論目指すべきものではあるが一つの物語を成功させた時、人は「良かった」という一言で片付けることが多い。それだけではない。一回の成功に固執し、同じ手法を何回も使おうとする。果たしてそれで学んでいるといえるのか？失敗は違う。人は失敗したと思つた時、必ず真剣に原因を考え次こそはと試行錯誤する。失敗と成功、どちらが学びをもたらすし、どちらが夢甲斐塾らしいだろう。

今回は郷育フォーラムのプレゼンという事もある。何かを伝えるだけではなく、失敗を通して多くの事を学ぶ姿勢を示すことも教育には必要なのではないだろうか？塾生には、たとえ万人が成功だと言つても、失敗と捉え、次に活かす姿勢が求められると思う。

夢甲斐フエスタ実行委員長
 真壁俊之

塾長紹介

上甲 晃 志ネットワーク代表
(じょうこう あきら)



夢甲斐塾とは

2001年に「山梨百年の計を考えれば「出る杭を打つ」ような県民性を克服しなければならぬ。これからは山梨の若い人達が世界を舞台にして果敢に「出る杭」になっていかなければならぬ。」という天野建山梨県知事の想いの元、次世代リーダーの育成を目的とした県の事業としてスタートしました。3年後の2004年からは県の事業から離れ、自主運営組織として活動しています。その研修内容は「自習自得」自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら実践することを基本としています。

10周年宣言

私たち夢甲斐塾生は、たくましい「出る杭」となるために夢甲斐塾を学びの場にとどまらず、行動・実践の場として、塾生が連携・協働をはかり、「志をつなげ」、新しい山梨の創造、日本再生の先駆けとなるべく行動を興じます。

代表挨拶

「分かりました、後は自分たちでやります。」
 このことばは、設立三年目に県から事業夢甲斐塾の打ち切りを伝えられた際に、夢甲斐塾上甲晃塾長が言い切つたことばです。上甲塾長には「十年一財産」という信念があり、教育に掛ける意地(志)から出たことばでした。

上甲塾長のこの一言から、自主運営組織として継続が決まった夢甲斐塾は、現在、スタートより十一年を経て巣立っていた塾生も二百五十名を超えました。今こそ新しい十年に向けて夢甲斐塾が進化する時を迎えています。夢甲斐フエスタはその一歩であります。塾生同士が刺激し合い、志を磨くこと、さらに志をつなげることで、より大きな行動・実践となり、新しい山梨の創造、日本再生の先駆けとなることを目指しています。

夢甲斐フエスタは今回が第一回目の開催となりますが、多くの方の協力を得て十年を目途に継続していきたいと考えています。

夢甲斐塾 第七代代表 入倉要(八期)

夢甲斐塾事務局

地域コミュニティ広場「花木」内
 山梨県甲府市朝日町2-16-19
 問合せ
 地域コミュニティ広場「花木」
 厚芝 TEL055-252-7987



<http://yumekaijyuku.jimdo.com/>